

### 歴史は未来の羅針盤



近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」の開館時は午前9時から午後4時まで、休館日は毎週月・火曜日、祝日の翌日、年末年始等になります。ぜひともご来館下さい。入館料は大人三〇〇円、中学生以下は一二〇円です。『近江日野の歴史』全九巻は、ふるさと館・教育委員会事務局・各公民館等に一冊四、〇〇〇円で好評発売中です。ぜひお買い求めください。

ふるさと館では、建物の公開・展示のほかに、古文書をはじめとする史料の収集・調査を行っています。今回は、新たに確認された西田先兵衛家文書を紹介します。

### 西田先兵衛家

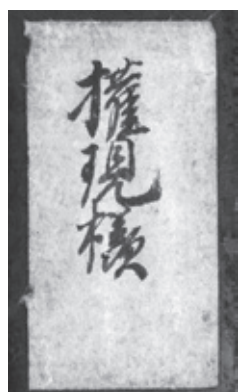
西田先兵衛家は、江戸時代に日野町惣代であった西田先右衛門の流れをくむ家です。西田先右衛門は蒲生家の家臣でしたが、天正十二（一五八四）年、氏郷が伊勢松ヶ嶋に移ったあとも日野に残りました。その後も蒲生家とつながりがあり、元和から寛永年間には蒲生家の鉄砲調達を請負うなど、様々な用をつとめた人物です。

西田先兵衛家文書には蒲生家の家臣から出された文書のほか、氏郷が日野を去った直後に出された羽柴秀吉の掟や、慶長五（一六〇〇）年の徳川家康朱印状など、近

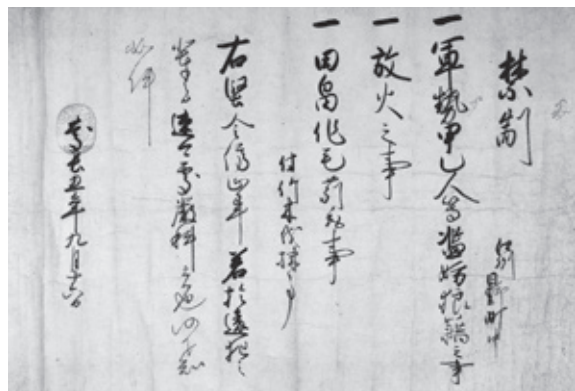
世初期の日野町を知ることが出来る貴重な古文書が含まれています。

### 江戸時代の「日野町」

江戸時代の日野町は、蒲生氏時代の城下町をもとに、発展してきました。蒲生氏郷の時代には、年貢以外の負担が免除される特権（諸役免除特権）がありました。その後、氏郷が伊勢に移った後に羽柴秀吉から出された「掟」でも、引き続き特権が認められています。



▲「権現様」と書かれた朱印状の箱



▲日野町中にあてて出された徳川家康朱印状

慶長五（一六〇〇）年九月十六日、徳川家康から軍勢による乱暴などを禁じた朱印状が日野町中に出されましたが、ここではそれまで認められていた特権については触れられていません。

そこで日野町では、蒲生氏城下町時代からの特権を守るため、西田先右衛門を惣代として幕府に対

してたびたび願い出ました。「関ヶ原の戦いの時に徳川家康に鉄砲を献上したため朱印状を頂戴した」という由緒を主張し、ついに諸役免除の特権を得ることができました。

### 御朱印祭

江戸時代中期以降、幕府はさまざまな役を負担させるため、朱印状の内容を確認しようと、日野町に対して書き写しの提出を求めます。しかし、町は神として祀っているので、書き写すことも見せることもできないと主張しました。

実際に、日野町では毎年四月十六・十七日に御朱印祭という行事が行われていました。馬見岡綿向神社の神前で御神湯を献じ、各家では献灯したり幟を立てたりしていました。この時、日野町から西田家に神酒料が出されていて、御朱印祭に西田家が深く関わっていたことがわかります。

現在、西田先兵衛家文書の詳しい調査を行っています。今後の新たな発見にご期待ください。